

「重信川かわまちづくり」

松山河川国道事務所 工務第一課 高野 稜馬
松山河川国道事務所 工務第一課長 宮田 晃

愛媛県では、しまなみ海道を中心に、全県域でサイクリング環境の充実に取組んでおり、重信川沿川もサイクリングロードとして活用されている。この取り組みを充実させるため、重信川沿川の4市町により「自然と人、人と人との出会いの場、重信川」をコンセプトに回遊性の向上、休憩施設、自然体験の場の充実、水辺の利活用など、サイクリングロードとしてさらなる魅力の向上、河川空間を活用した地域の観光振興の促進を図るため、平成31年3月に「重信川かわまちづくり計画」が作成・登録された。今回、この「重信川かわまちづくり」に関する概要を報告するものである。

キーワード かわまちづくり、観光促進、地域活性化、河川占用

1. はじめに

(1) かわまちづくり支援制度の概要

「かわまちづくり支援制度」とは、河口から水源地まで様々な姿を見せる「河川」とそれにつながる「まち」を活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す制度である。(図-1)



図-1 かわまちづくりの流れ

(2) 河川占用の緩和

水辺の利用は「ダメ！ダメ！」から「やれるかも！」へ。

をテーマのもと、かわまちづくりの支援の一つとして、河川占用の緩和が行われている。これは、旧来では、主体が公的機関に限定されていたが、平成23年3月の準則改正により、水辺利用の規制が緩和され、全国の河川で民間事業者による、飲食店、オープンカフェ、広告板、照明、音響施設、バーベキュー場等の設営が可能となり、イベント等の開催も可能となった。これにより、全国で水辺空間の様々な利用が加速している。(図-2)



図-2 占用施設のイメージ図

2. 重信川流域の概要

(1) 流域の概要

重信川の流域は、恵まれた自然環境に加え、道後温泉をはじめとする観光地や大規模なスポーツ施設もあり、地域の賑わいを創出できる大きなポテンシャルを秘めている。(図-3)



図-3 重信川流域図

重信川の沿川には、松山市をはじめとする2市2町がある。松山市は、四国最大の都市であり、松山城を中心に発展してきた旧城下町で、俳句や小説『坊ちゃん』などで知られる文学のまちでもある。

東温市は、恵まれた自然環境と県都松山市の至近にある地理的条件から、都市近郊田園都市として発展を続けている。

松前町は、道後平野の西南部に位置し、豊富な水と肥沃な土地を活かした農業をはじめ、工業や大型ショッピングセンターの立地による商業等、バランスのとれた町として発展している。

砥部町は、240余年の歴史を持つ国の伝統工芸品「砥部焼」の産地である。また、西日本屈指の規模を誇る県立「砥部動物園」など広大な県営の施設群がある。



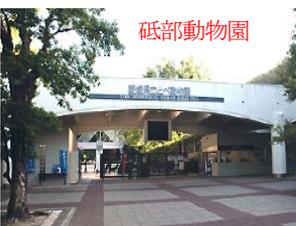
松山城



劇場施設



大型商業施設



砥部動物園

(2) 愛媛県取組

愛媛県では、『地域経済の活性化』に向けた主要プロジェクトの一環として、『自転車新文化』を推進している。この主な施策として「自転車県のブランド化」を目指しており、「サイクリストの聖地」しまなみ海道での国際サイクリング大会の定期開催、しまなみ海道自転車通行無料化、台湾「日月潭」と瀬戸内しまなみ海道との姉妹自転車道協定締結、地域資源と組み合わせ合わせたツアー商品製造などを行っている。この取組の中で、サイクリングパラダイス愛媛実現のため、重点戦略エリアとして「重信

川自転車道 水と緑の癒やしの道コース」を設定している。(図-5) (図-6)



図-5 台湾「日月潭」と瀬戸内しまなみ海道との姉妹自転車道協定締結
図-6 サイクリング大会

3. 重信川かわまちづくり

(1) かわまちづくり計画立案のための検討体制

重信川の『かわまちづくり計画』を作成するにあたり、愛媛大学の学識者や民間事業者等と意見交換を行う「重信川かわまちづくり懇談会」を設置し、基本方針の作成のための要望・助言を頂いた。

また、流域市町の関係課長(松山市、東温市、松前町、砥部町)及び愛媛県の自転車新文化推進室、中予地方局とともに、『かわまちづくり計画』の要望等に関する計画調整を行い、検討を行うため、「重信川かわまちづくり協議会」を設置し、「重信川かわまちづくり」を作成した。

(2) 重信川かわまちづくり方針

重信川かわまちづくりの基本方針として、3つのテーマを設置した。

- 広場を整備し、マルシェ・サイクリイベントなどを開催することで、「出会いの場をつくる」。
- 治水対策による治水安全度の向上、防災・水防訓練による水防意識の向上を図ることで、「安心・安全な水辺空間をつくる」。
- 防災ステーションや歴史ある治水施設を活用した防災学習、交通や水辺における安全教育を行うことで、「学びの場をつくる」。

これらの基本方針に基づき、「かつての水辺のにぎわいを復活」させることとしている。

(3) 「出あい」水辺のにぎわいをつくるかわまちづくり

1) サイクリングロード・遊歩道で人と川をつなぐ

現在、サイクリングロードが一部整備されているが、道幅が狭く、自動車等との接触が危険な箇所があるため、安全・快適にサイクリングを行うことが出来ない。そこで、高水敷の通路整備などのハード整備を行うことで、安全性が増す。このような整備の実施により、レースやランニング大会などのイベントを開催することが出来るようになり、水辺のにぎわいを呼び込むことができる。

(図-7)



(整備前) (整備後)

図-7 高水敷の通路整備例

2) 具体的な整備 (リバースポットの紹介)

重要自動車コースである「重信川自転車道～水と緑の癒やしのみちコース～」として、サイクリングロード、遊歩道の整備と併せて休憩所やサイクルスタンドを設置することで、快適なサイクリングや散策が出来るようリバースポットを整備する。

■リバースポット①：河口

現在、重信川の河口は、環境省「シキ・チドリ類の重要渡来地」、「重要湿地500」に指定されるなど、良好な自然環境が形成されている。また、河口に沈む夕日を見る事が出来るので、ベンチ・サイクルスタンドを設置し、SNSに映えるよう整備する。(図-8)



河口からの写真



図-8 リバースポット①の将来イメージ

■リバースポット②：出合

出合は、幹線国道56号に隣接しており、伊予鉄鎌田駅より、徒歩7分の好立地である。また、愛媛・松山の伝統的な「いも炊き」会場としても利用されており、人を引きつける環境整備が望まれるため、階段、管理道を整備し、いも炊きなどを行いやすいようにする。(図-9)



図-9 リバースポット②の将来イメージ

■リバースポット③：中央公園

松山中央公園は、年間利用者が70万人を超え、「坊ちゃんスタジアム」を代表とする多数のスポーツ施設等を有する四国最大の複合公園である。中央公園と一体となったベンチやサイクルスタンドを整備し、マルシェ、カフェなどを誘致することで、運動後にやすらげる場を創出する。(図-10)



図-10 リバースポット③の将来イメージ

■リバースポット④：重信工業団地前

重信川工業団地前の堤防は、桜堤として整備されている。堤内地とのアクセスは良好であるが、堤外地は雑草が繁殖しているなど、水辺に近づきにくい状況である。高水敷造成、緩傾斜堤防及び低水護岸を整備することにより、フリーマーケットやイベント等、多くの人々が集い、憩いの場となる水辺空間や水辺に降りて環境学習を行える場として活用する。(図-11)





図-11 リバースポット④の将来イメージ

■リバースポットの活用：開発かすみ

平成30年5月5日にかすみの森公園でマルシェが開催された。規模としては、出展数が約40ブース、参加者は、3000人ととても多くの人水辺に集まり、賑わった。(図-12)



図-12 マルシェ時の写真

■リバースポットを活用した通年活動

リバースポット(憩いの場)の整備をもとに、春には、お花見会。夏には、水辺で乾杯。秋には、いもたき。冬には、リレーマラソン。これらのような、季節に適したイベントに加え、通年活動として、カフェ・バー、フリーマーケット、マルシェなどにも活用する。

(4)「学び」豊かなところをはぐくむかわまちづくり

重信川では、環境学習の場として自然再生事業が実施されている。この「自然再生箇所」や「かわまちづくり拠点箇所」、「森の交流センター」などの既存施設を有効活用するため、小中学校や関係機関と連携し、ソフト施策の充実を図る。

また、防災学習の場として、「かわまちづくり拠点箇所」や「重信川防災ステーション」を活用する他、「岩堰」等の歴史的治水施設などを有効活用するため、小中学校や関係機関と連携したソフト施策の充実を図る。

4. 重信川かわまちづくりの登録

(1)地域との意識共有

平成31年3月23日に、重信川(東温市かすみの森公園)で松山河川国道事務所長から、実施主体の代表として、東温市長へ「かわまちづくり計画」の登録証伝達式を開催し、地元小学生など約300名がお祝いした。

また、かわまちづくりの一環として、東温市が河川敷公園に先行整備した「東温市かすみの森スラックラインパーク」のオープン記念イベントも同時開催し、多くの人でにぎわった。(図-13)



図-13 式典時の状況

(2)ミズベリングプロジェクトHP

重信川かわまちづくりの登録にあわせ、ミズベリングプロジェクトのHPを開設した。HPでは、水辺のイベントなどを紹介し、広く一般に取組の紹介を行うこととしている。

ミズベリングプロジェクト



5. 今後に向けて

現在、かわまちづくりのミズベリングプロジェクトとして、重信川水系にある石手川の水辺空間の利活用により魅力を高めるため、松山中央公園、石手川ダム展望台(みはらし公園)を対象箇所として、実施期間を6月~11月までの間、社会実験を行うこととしており、実施団体も決まっているため、社会状況を見ながら、イベントの開催に向けて、取り組んでいくこととしている。

今後も、重信川及び流域の市町の魅力を知ってもらうため、今までに無かった水辺空間の利活用を考え、それを形にし、地域住民だけでなく、遠方からの来訪者を増やし、水辺ににぎわうよう取り組んでいきたい。